

二つの地方紙の記事を見比べて違いを探る児童＝15日、美浜西小



記事の内容を理解しながら見出しをつける児童＝15日、若狭町瓜生小



## 記事どうやって作る？

美浜西 児童実践通じ学ぶ  
若狭・瓜生

島泰彦NIEコーディネーターら2人が、講師として両校を訪れた。

瓜生小では4年生の19人が受講。徳島コーディネーターは、新聞の役割は「伝えること」と説明し、東日本大震災後に現地で張り出された手書きの「石巻日日新聞」(宮城県)を紹介した。

また、記事を書く基本となる「5W(いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ)1H(どのように)」を記事から探し、7、12文字を目安に見出しをつける体験もした。西野帆

瓜生小は本年度から、美浜西小は昨年度からNIE実践指定校に選ばれている。福井新聞社の徳



美浜西小と若狭町瓜生小で15日、新聞の読み方や作り方を学ぶ出前講座が行われた。両校の計42人が受講し、読む人に伝わる記事の書き方や見出しの付け方などを学んだ。

また、記事を書く基本となる「5W(いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ)1H(どのように)」を記事から探し、7、12文字を目安に見出しをつける体験もした。西野帆

「高君は「少ない文字数で見出しを付けるのは難しかった」と話していた。5年生23人が受講した美浜西小では、福井新聞と北海道新聞の読み比べをした。同じ内容のニュースでも扱いの大きさや学校名の書き方に違いがあることを確認。地域ごとに関心や影響の大きさを考慮しながら、各紙がニュース価値を判断していることを学んだ。清水香羽さんは「地元の新報の方が詳しく書いていたことが分かった」と話していた。(成実宏二)